Community Action Development Organisation

キャン ドゥ

CanDo アフリカ

特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会(CanDo)会報 2013 年 12 月 [第 65 号]

活動の方向性 **ケニア共和国マシンガ県での新たな活動** 永岡 宏昌

ナイロビ便り **9 月、ウェストゲート・ショッピンクモールでテロ** 永岡 宏昌

インターンを終えて 岩本穂菜美／安井 達哉／藤原 照恭

新しいケニア人スタッフを紹介 伊東 彩

ケニアでの活動／国内活動から

フォト・レポート **サイザルを編む人たち**

事務局から

写真: マシンガ県の小学校で。約 470 人分の給食を準備中(上)／生徒たち(下)

活動の方向性

ケニア共和国マシンガ県での新たな活動

代表理事　永岡　宏昌

2013 年 10 月、当会は新たにマシンガ県で活動を開始しました。現在の活動地、ミグワニ県（最初のムインギ東県の西）の西隣です。同じくカンバ人が多く暮らす地域ですが、上位の行政単位がムインギ東とミグワニ県はキツイ地方、マシンガ県はマチャコス地方に属し、行政ラインは異なります。16 年間で蓄積された人々のネットワークから外れた、すなわち、当会の活動を知らない行政官、教員、住民と共に活動することになります。

事業は、これまでと同様に、小学校と周辺地域、「学校地域社会」を対象としています。地域が抱える教育・保健・環境保全の課題に関する知識・技能を大人たちが学び、実践的な課題解決の活動を当会との協働で行ないます。子どもの健康と教育を保障できる成功体験を積み重ねることを目指し、それが大人たちの自律的な活動につながると考えます。

マシンガ県の小学校を見ると、過去には、住民が土地を確保して教室を自律的に建設することで、子どもの教育を保障していました。無償義務教育が始まった 2003 年くらいから、ケニア政府系資金や国際 NGO の支援により立派な教室が建設され始めました。しかし、古い教室から立派な教室に置き換わる前に、現在では政府も国際 NGO も教室建設の支援を終えてしまうようです。ほとんどの小学校で、立派過ぎる教室と老朽化した教室が併存する状況のまま停滞しています。

また、給食を見ると、2008 年までは世界食糧計画（WFP）の支援で全ての小学校で給食が提供されていました。しかし、WFP との契約終了により、給食はケニア政府に引き継がれ、次第にその対象校が減らされています。同じ地域の公立小学校の中で、給食のある学校とない学校があります。給食のない学校では、家庭から弁当を持ってくることになっていますが、多くの子どもたちが昼食を食べられなくなっているのが実情です。

支援がこないのであれば、地域の大人たちが、小学校の運営に高度に参加し、自律的に子どもの教育と健康を保障することが必要です。現在、マシンガ県では、そのような時期にあると分析しています。事業開始にあたり、マシンガ県の多くの行政官や小学校校長と、この分析と当会の事業方針について意見交換を行ないました。マシンガ県の住民は受け身の援助に慣れていて、高度な住民参加は難しい、というのが共通した見解でした。一方、住民の自律的な参加は不可欠であり、諦めずに時間をかけて達成してほしい、との励ましも多くいただきました。

ナイロビ便り

9 月、ウェストゲート・ショッピングモールでテロ

永岡　宏昌

その日、9 月 21 日土曜日の昼ごろ、当会の日本人は、「ふれあい祭り」が開催されている、ナイロビ郊外の日本人学校に来ていました。年に一度、ケニア在住の日本人が集合するので、お互いに無事と健康を確認する機会と考えて、参加しています。

祭りの途中で、ウェストランド方面で銃撃事件が起こっているので、近寄らないほうがよい、という簡単なアナウンスがありました。ケニアに滞在していると、銃撃事件は日常の話に聞こえるようになります。その付近に行く予定もなかったので、特に気にしませんでした。知人との挨拶を終え、祭りを中座して帰宅する途中、夕食の買い物のために老舗ショッピングモール「ヤヤセンター」に寄ると、営業を中止し、全館を閉鎖していました。これは大きな事件が発生したと気づき、事務所にもどったところ、ナイロビの北西、ウェストランドにある、高級ショッピングモール「ウェエストゲート」でテロ事件が発生していることを知りました。

今回の事件は、ソマリアの武装集団アルシャバブが、2011 年 10 月の単独侵攻で始めたケニア軍のソマリア駐留に対抗し、その撤退を要求しての武力行使のようです。大量の武器弾薬が持ち込まれての 3 日間におよぶ治安部隊との攻防では、67 人以上の犠牲者を出しました。外国人も多数にのぼり、外交官、援助関係者、著名文化人が含まれていました。

事件中は、10 人以上の訓練された人員による攻撃とされ、かねてから捜査対象になっていた英国人女性や、ソマリア人以外の外国人も含まれている、という見解が聞かれました。事件が終結して 2 か月半がたちますが、実行犯として特定されているのは 4 名とのこと。残りの人員は、事件現場から逃げて、国外にでたのか、ナイロビに潜んでいるのか。なぜ大量の武器弾薬が、ショッピングモールに持ち込めたのか。謎の多い事件です。

謎といえば、この 2 年間、ケニア軍はソマリアでどのような軍事行動をとっているのか、アルシャバブの武力・組織力を弱めることにつながっているのか、駐留地域の平和構築に貢献しているのか、なども不明です。

言えるのは、この事件の再発を予防できそうな要素は見当たらないということ。高級ショッピングモールに代表される、ナイロビで一部のケニア人と外国人が享受していた平和な消費生活スタイルが、破たんしつつあることでしょうか。

インターンを終えて

保健プロジェクトの 3 年目、エイズ・リーダー研修

岩本　穂菜美

2013 年 4 月から、私は地域保健の活動のエイズ・リーダー研修に携わることとなった。ミグワニ県での 3 年間の保健プロジェクトの 3 年目で、ケニア人と日本人スタッフ、以前のインターンにより、地域住民や行政官との人間関係が既に築き上げられていた。すべてが私にとって初めてのことだらけの中で、この事実は私に大きな勇気をくれた。行政官を訪問した際に笑顔で今回の研修への賛同を得ることができたのは、今までの CanDo の活動があってこそだと感じ、自分もここで学ぶだけでなく、何かほんの少しでも貢献したいと思った。

しかし、ケニア人スタッフに教えてもらうことばかりで、始めてから 3 か月は、事務的な作業をミスなくこなすことでいっぱいになってしまった。そんな中でもケニア人スタッフは辛抱強く私の言葉に耳を傾け、丁寧に私の質問に答えてくれた。また日本人スタッフ、事業責任者である永岡代表も、毎日、毎週のように活動に関してアドバイスをくれた。

今回の渡航では私自身の未熟さを痛感した。次は私を育ててくれたケニアの人々とアフリカの赤い大地に貢献したいと思う。

学習会や保護者会議の出席率の問題

安井　達哉

2013 年 4 月から半年間のインターンの中で、私は教室建設・補修事業を担当した。事業は、教室建設と補修を通して、住民たちの学校運営能力を向上させることも目的としている。そのため住民には学習会や保護者会議への過半数の出席が、地域資材の確保などと共に求められている。しかし、住民のニーズが比較的に高い教室建設・補修事業でも、出席者の数ではたびたび問題が起きた。また、地域資材の確保など多くの仕事も問題となった。出席率が落ち、地域資材の準備の進行状況が悪くなると、その都度、住民と一緒に問題の解決策を考えた。

このインターンの経験で住民参加型開発協力の難しさを知った。どの NGO も住民のニーズと予算の制約の中で、無駄は省きつつ、必要な活動を行なう。その無駄と必要の判断が難しかった。住民にとって必要なことを考えるためには、物事の背景まで見る力、探る力が必要だと感じた。

自分の無知と「日本の素晴らしさ」を学んだ半年間

藤原　照恭

2013 年 4 月、私はケニアの地に立った。周囲にはアフリカ人だけの空港で、迎えを待っていた。インターン生活が不安と共に始まった。

半年間、ムインギ県の 5 校の公立小学校で環境活動に携わった。環境活動を通して、自分の無知を学んだ。ケニア人スタッフと共に考えた環境活動の中長期目標が、実際の活動とは整合せず、結果として現地住民に影響が出てしまう。環境を相手にすると、一つの失敗が大きな問題となる。経済学では、机上で理論ばかりを考えてきた私にとって、現場で将来を見据えた活動をすることは難題だった。改めて、人のために生きることの難しさを知る機会となった。

しかし、半年間で最も大きな収穫は「日本の素晴らしさ」を学ぶことができたことだ。帰国後、水が自然に出ること、停電することなく使える電気、新鮮な農産物は、日本の素晴らしさを再認識させるものだった。将来、日本人として、世界に日本の素晴らしさを伝えていきたいと考えている。

新ケニア人スタッフの自己紹介

2012 年 9 月から勤務

◇調整員助手ー学校保健（写真左）

「**レベッカ・ムワンガンギ**です。年齢は 26 歳で、小学校の教員の免許を持っています。旅行が趣味なので、いろいろな活動地に行ける現場業務はとても楽しいです。CanDo で一番印象に残っているのは、常勤スタッフに昇格したときのこと。これまで以上に、コミュニティのために働けるようになることが、自分の自信につながりました」

◇調整員助手ー教室建設・補修（写真中）

「**フレドリック・ザンギ**、23 歳です。保健・環境・建設といったさまざまな活動で知識を伝えることを通じて、地域の人々の能力を向上させる CanDo の活動に喜びを感じています。コミュニティからの前向きな反応があると、自分自身のモチベーションにもつながります」

2013 年 9 月から勤務

◇通訳ー地域保健（写真右）

「**エドナ・ムウィカリ**です。24 歳です。社会人の責任の一端として、コミュニティのために働くことが私の生涯の目標であるため、コミュニティとともに活動する CanDo で働くことを、とても嬉しく思います。また、ケニア人として、日本の皆さんの支援にとても感謝しています」　（訳　調整員　伊東彩）

ケニアでの活動　—2013 年 9～11 月

■ミグワニ県

〇学校ー施設拡充

・小学校11校で、教室の建設・構造補修、基礎を保護するリテンド（土留め）壁の設置の作業が進んでいます。1校で覚書2を締結。

・小学校4校で、水タンクの台座を設置。

〇学校ー環境活動

・1校で接ぎ木の学習会を開催、1校で排水路の補助壁の位置決め、1校で草地化の作業。

〇学校ー保健

・小学校でのエイズ教育研修では、公開授業を10月末までに30校で実施。子どもたちが学んだことを表現する発表会を1校で開催。

・10月末までに早期性交渉予防を10校で実施しました。

・幼稚園では保護者、教師を対象に、3 園で子どもの病気の学習会、1 園で運営の学習会を開催。1 園で野菜苗床作りの学習会の後に実習、そして害虫予防の学習会を開催。

〇地域ー保健

・11月末までにエイズ・リーダー研修を30準区で実施しました。

・研修を修了したリーダーによる学習会は、参加人数、内容に差がありますが、各準区で開催されています。

■ムインギ東県

・2009年のエイズ事業のその後について、ムイ郡で大使館職員とインタビュー。

■マシンガ県

・県知事事務所、県保健局、県開発局、マシンガ区長、キバー区長を訪問。事業の説明と意見交換。マシンガ教育区教育事務所で事業の内容と進め方を説明、同意を得ました。

・マシンガ教育区の公立小学校14校（全15校）で、校長への聞き取りと校内の施設、環境の状況を調査。

国内で　10 月 5 日、6 日、グローバルフェスタ JAPAN 2013 に出展

東京・日比谷公園での国際協力イベントが、今年は「国際協力の日」*10月6日と前日に開かれました。CanDoは、活動紹介の展示、サイザル・バッグなどの販売のほか、かご編み体験を企画。繊維やひもを紹介しました。

＊1954年、コロンボ計画（アジア及び太平洋地域諸国の経済社会開発の促進を目的とした地域協力機構）加盟を閣議決定。政府開発援助を開始。

フォト・レポート

サイザルを編む人たち

単子葉植物のリュウゼツラン科のサイザルは、麻に似た丈夫な繊維植物。カンバの人たちは活動の合間もサイザルでロープやかごを編んでいます。

上左：　教室の基礎保全と建設の準備を進めている小学校で、保護者会議の開始まで、ひもを編む。

上右：　教室の基礎保全と構造補修の候補校で、保護者会議の開始まで、かごを編む。

中左：　保健研修の集会の帰途、かごを編む。

中右：　保護者会議の最前列に、かご。

下：　こどもたちの後ろ、まっすぐな葉がサイザル。

いずれもミグワニ県で撮影。

事務局から

報告

◇支援

〇9 月 27 日、(独行)国際協力機構(JICA)と草の根技術協力事業(パートナー型)として「ケニア国マチャコス地方マシンガ県マシンガ郡キバー区・マシンガ区での住民への基礎教育を通じた参加型子どもの健康・教育保障事業」の業務委託契約を締結(1 回目は 10 月 1 日～2016 年 3 月 31 日の期間、3267 万 9872 円。2 回目は続いて 1 年半)。

◇国内活動

〇9 月 25 日、『CanDo15 年の歩み』(A5 判 24 ページ)を発行。

〇10 月 5 日、6 日、グローバルフェスタ JAPAN 2013 に出展。

〇11 月 8 日、青山学院女子短期大学で理事佐久間典子がゲスト講義。

〇11 月 30 日、国際開発学会第 42 回全国大会のパネル・ディスカッション「アフリカの子どもたちの未来像: 保健医療・教育分野の開発がもたしたもの」に代表理事永岡宏昌が出演。

人の動き　＊派遣・出張先はケニア

〇9 月 23 日、調整員 伊東彩を再派遣。

〇9 月 27 日、三國志保(みくに しほ)、10 月 4 日、泉田恵子(いずみだ けいこ)、10 月 8 日、井町友香(いまち ゆか)をインターンとして派遣。

〇10 月 6 日、インターン 岩本穂菜美、藤原照恭、10 月 13 日、安井達哉が研修期間を終了して帰国。

〇10 月 11 日、調整員 鬼頭景子が任期を終了して帰国。

〇11 月 8 日、事業責任者(兼代表理事)永岡が予定していた出張期間を短縮して帰国。

〇12 月 2 日、永岡が短期出張。

お知らせ

□12 月～2014 年 2 月「使用済みインクカートリッジ回収キャンペーン」

CanDo が参加している(特活)国際協力センター(JANIC)NGO サポート募金が実施中。

http://www.janic.org/bokin/fundnews/ngo_55.php

■次号は、2014 年 3 月に発行の予定です。

CanDo アフリカ [第 65 号]　2013 年 12 月 12 日発行

発行人: 永岡宏昌　編集人: 佐久間典子

発行: 特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会 (CanDo)

〒110-0001 東京都台東区谷中 2-9-14 第 2 森川ビル B 号室

電話／FAX: 03-3822-1041

電子メール: tokyo@cando.or.jp

ウェブサイト: http://www.cando.or.jp/

郵便振替: 口座番号 00150－2－15129 加入者名 アフリカ地域開発市民の会